



家庭菜園ひろば

おしえて！ あなたのワザとアイディア

耕さない種まき、苗植え！？

就農して32年、畑に耕うん機を使わなくなって20年余りになります。福津農園は自然に習う有機循環農業を実践しています。当初は水稲・畑作をしながら市議会議員やいろいろな団体の役員を兼務し、忙しい毎日でした。その忙しさの中から自然の仕組みに学んだ楽々農法がたくさんありますのでその一例をご紹介します。



まつざわ まさみつ
松沢 政満さん

(愛知県新城市)

自然に習う農 32年
栽培面積 160 a

草の上からバラまき播種

対象野菜はダイコン、カブ、コマツナ、ミズナなどの根菜類や葉菜類（結球野菜除く）です。

- ①草が生えた状態のまま草の上から種をまきます。草が乾燥した状態であることが重要です。草が乾いていれば種は草の上から転がり落ち、土の上にまかれたようになります。
- ②種をまいたら直ぐにハンマーナイフモアで草を粉碎します。ただし、土をすき込まないように高さを調整します。粉碎された草が種を覆って、鳥からの食害を防ぎ、発芽に必要な水分を保ちます。
- ③数日すると発芽条件を満たした種は発芽します。後は収穫を待つだけです。



1 草の上から種をまく



2 ハンマーナイフモアをかける



発芽の様子(右)と
グングン育つ
ダイコン(左)

雑草を活かした草マルチ

夏草は晩春から初夏の裸地に多種大量に生え、勢いづかせると大変です。ではどうするか？夏草は強光・高温・干天には強く、日照不足には弱いので冬草を活用します。農園内に自生しているイタリアンライグラス(冬草)は、4月末～5月上旬に花を咲かせ種をつけます。このタイミングで空のドラム缶を転がして草を押し倒すと、子孫(種子)を残すために起き上がり土作りをしながら生き続け、長期間有効な草マルチになります。発芽幼少期の夏草は草マルチに覆われ遮光されるため生育が抑制されます。その草マルチをかき分けてカボチャの種をまいたり、夏野菜の苗を植えます。草マルチは盛夏の高温乾燥を緩和し、また夏野菜の害虫を捕食するクモ等の棲み処にもなり、晩秋には分解が進んで土を肥沃にし、秋冬野菜にリレーされます。



ドラム缶を転がし、イタリアンライグラスを倒す



草マルチをかき分けて、種をまいたり苗を植える



前年のこぼれ種から自然生えた野菜たち

コツ・ワザ・アイディア 大募集！

このコーナーでは、菜園やプランター栽培をされている方々から、おいしい野菜を育てるコツ、たくさん穫るコツ、病虫獣害対策、簡単作業など、家庭菜園から生まれる様々なワザやアイディアを募集しています。まずは、技術普及課（0569-89-7643）までご一報ください。